

問1 鎌倉時代から室町時代にかけての日本の農業について述べた文として、当時の技術や社会背景をふまえて最も適切なものはどれですか。14世紀末の農業の様子を描いた絵巻物の記録などにに基づき、正しい内容を選びなさい。(2017年 鳥取公立入試 類似)

1. 西日本を中心に、同じ耕地で夏に米、冬に麦を栽培する二毛作が広まり、牛馬による耕作も行われるようになった。
2. 石包丁を用いて稲の穂の部分だけを摘み取る収穫方法が全国に広まり、食料生産が安定した。
3. 備中鍬と呼ばれる深く耕すための農具が発明されたことで、大規模な新田開発が幕府主導で進められた。
4. 海外輸出を目的とした製糸業が農村の副業として定着し、全国の耕地で桑の栽培が米より優先された。

問2 源頼朝が幕府の拠点として鎌倉を選んだ理由には、その独特な地形が関係しています。当時の鎌倉の地形的な特徴と利点について説明した文として、最も適切なものはどれですか。(2015年 岐阜公立入試 類似)

1. 三方を山に囲まれ、南側が海に面しているため、敵からの攻撃を防ぎやすい要害の地であった。
2. 広大な平野が広がっており、大規模な騎馬軍団を訓練したり、農地を拡大したりするのに適していた。
3. 京都から続く平坦な道が整備されており、朝廷との連絡を迅速に行うことができる交通の要所であった。
4. 巨大な川の河口に位置しており、内陸部への水運を利用して大量の年貢米を集めるのに適していた。

問3 鎌倉時代を代表する仏師である運慶の作風や活動背景について、正しく述べているものはどれですか。(2022年 新潟県公立入試 類似)

1. 武士の好みを反映した力強く写実的な彫刻を追求し、東大寺南大門の金剛力士像などを手がけた。
2. 幕府の保護を受けて中国(明)へ渡り、水墨画の技法を取り入れた新しい芸術の形式を確立した。
3. 念仏を唱えながら踊ることで、地方の武士や民衆の間に新しい仏教の信仰を広める活動を行った。
4. 山の中で厳しい修行を行い、座禅によって自ら悟りを開くことを説く新しい宗派を広めた。

問4 1185年、源頼朝は平氏を滅ぼした後に朝廷から許可を得て、国ごとに軍事・警察を担う役職を、荘園や公領ごとに年貢の徴収や管理を担う役職をそれぞれ設置しました。この二つの役職の組み合わせとして正しいものを選択してください。(2025年 山口公立入試 類似)

1. 守護・地頭
2. 国司・郡司
3. 執権・連署
4. 検非違使・勘解由使

問5 鎌倉時代、平氏一族の繁栄から滅亡までの過程を描いた「平家物語」は、ある人々が楽器を奏でながら語り歩くことによって広く民衆に伝わりました。この物語を語り広めた人々と、この作品が属する文学ジャンルの組み合わせとして適切なものはどれですか。(2026年 群馬公立入試 類似)

1. 琵琶法師 — 軍記物語
2. 琵琶法師 — 随筆
3. 念仏僧 — 軍記物語
4. 白拍子 — 物語文学

問6 1185年に源頼朝が朝廷から認めさせ、全国の荘園や公領に設置した役職について述べたものとして正しいものはどれか。(2016年 奈良公立入試 類似)

1. 荘園や公領の管理、年貢の徴収、警察の役割を担った地頭
2. 国ごとに1人置かれ、軍事や警察の職務を担った守護
3. 北条氏が世襲し、将軍を補佐して政治の実権を握った執権
4. 征夷大將軍に任命され、鎌倉に幕府を開いた源頼朝

問7 鎌倉幕府の統治の仕組みにおいて、幕府の最高権力者である将軍の下に置かれた「執権」という役職の説明として、最も適切なものを選びなさい。(2021年 秋田県公立入試 類似)

1. 北条氏が代々受け継ぎ、将軍に代わって幕府の政治を主導した実務上の最高責任者
2. 源氏の血筋を引く者のみが就任し、軍事指揮権を専門に行使した役職
3. 京都の朝廷を監視するために設置され、西国の御家人を統制した役職
4. 足利氏が幕府を開く際に、将軍を補佐するために新設した管領の前身となる役職

問8 承久の乱の後、鎌倉幕府の支配体制は大きく変化しました。この時期の状況を説明した文として最も適切なものはどれですか。(2026年 島根公立入試 類似)

1. 幕府を支持する御家人が東日本に限定されていた状況から、乱の勝利によって没収した領地に地頭を任命することで、幕府の支配力が西日本を含む全国へ広がった。
2. 元軍の侵攻に備えるため、九州地方の北部に鎮西探題を設置し、沿岸部の防備や西国の御家人の指揮を強化した。
3. 朝廷との融和を図るため、公家と武士の両方の性質を持つ公武合体政策が進められ、京都の治安維持は朝廷が自ら行うこととなった。
4. 徳川氏が朝廷や西国大名を監視するために京都所司代を設置し、天皇や公家の行動を厳しく制限する法を定めた。

答え合わせ・解説

- 問1** **答え 1**
西日本を中心に、同じ耕地で夏に米、冬に麦を栽培する二毛作が広まり、牛馬による耕作も行われるようになった。
- 鎌倉時代、西日本から始まった二毛作は、農業生産力を飛躍的に高めました。これは夏に主食となる米を、冬には裏作として麦を育てる仕組みです。また、この時期には牛や馬に農具を引かせて田畑を深く耕す「牛馬耕」や、草木を焼いた灰を肥料にする「草木灰」の利用、灌漑用の水車の普及など、技術的な進歩が重なったことで中世の農業は大きく発展しました。選択肢にある石包丁は弥生時代、備中鍬は江戸時代、製糸業の近代化は明治時代以降の特徴であるため、時代背景が異なります。
- 問2** **答え 1**
三方を山に囲まれ、南側が海に面しているため、敵からの攻撃を防ぎやすい要害の地であった。
- 鎌倉は、背後に山を背負い、前方に海が広がる「守りやすく攻めにくい」地形をしていました。源頼朝はこの地理的優位性に注目し、武家政権の本拠地を築きました。山を切り開いて作られた「切通（きりどおし）」という道以外からは侵入が難しい構造になっていました。
- 問3** **答え 1**
武士の好みを反映した力強く写実的な彫刻を追求し、東大寺南大門の金剛力士像などを手がけた。
- 鎌倉時代は武士が政治の実権を握った時代であり、文化の面でも、より現実的で力強い表現が求められるようになりました。運慶は、その時代の要求に応えるように、解剖学的に正確な筋肉の動きや、生き生きとした表情を持つ彫刻を多く残しました。特に東大寺南大門の金剛力士像は、慶派の写実主義が頂点に達した作品と評されています。他の選択肢は、順に室町時代の雪舟、鎌倉新仏教の一遍（時宗）、道元（曹洞宗）の活動について述べたものです。
- 問4** **答え 1**
守護・地頭
- 源頼朝は弟の源義経を捕らえるという名目で、全国に「守護」と「地頭」を配置する権利を得ました。守護は主に令制国単位で軍事や治安維持を担当し、地頭は各荘園などで年貢の取り立てや土地の管理を行いました。これにより、鎌倉幕府による地方支配と土地支配の基盤が固まりました。
- 問5** **答え 1**
琵琶法師 — 軍記物語
- 鎌倉時代には、武士の活躍や戦乱の様子をテーマにした軍記物語が数多く作られました。その代表作である平家物語は、琵琶を弾きながら物語を語る「琵琶法師」と呼ばれる人々によって、文字を読めない人々も含めた幅広い層に普及しました。選択肢にある随筆の代表例としては、同時期に鴨長明が記した『方丈記』などがあります。
- 問6** **答え 1**
荘園や公領の管理、年貢の徴収、警察の役割を担った地頭
- 平氏を滅ぼした源頼朝は、対立した弟の源義経を捕らえるという名目で、1185年に後白河法皇に守護・地頭の設置を認めさせました。地頭は各荘園や公領（国領）ごとに置かれ、土地の管理や年貢の徴収、地域の警察活動といった実務的な支配を担いました。これにより、幕府の支配力が地方の末端まで及ぶようになりました。
- 問7** **答え 1**
北条氏が代々受け継ぎ、将軍に代わって幕府の政治を主導した実務上の最高責任者
- 執権はもともと政所（まんどころ）の長官を指す言葉でしたが、北条時政が就任して以降、幕府の政務全般を統括する重要なポストとなりました。源氏の将軍が途絶えた後も、北条氏は皇族や公卿を将軍として迎えつつ、自らは執権として実権を維持し続けました。
- 問8** **答え 1**
幕府を支持する御家人が東日本に限定されていた状況から、乱の勝利によって没収した領地に地頭を任命することで、幕府の支配力が西日本を含む全国へ広がった。
- 承久の乱の前まで、幕府の勢力は主に東日本を中心としていましたが、乱の結果として上皇側から没収した3000カ所以上の所領に新補地頭を任命したことで、その支配力は西日本まで一気に拡大しました。この西国支配の拠点として機能したのが六波羅探題です。